

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月10日(火)

会場:和田コミュニティセンター

参加者数:16人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>住民自治組織の運営について、少し不安を感じている。世代間と考え方の違いが少しずつ出てきていることや、地域の高齢化が進行していることから、地域内の各団体の役員が固定され、交代できない状況にある。また、住民自治組織の事務局職員も円滑に交代できない。この課題は、和田地区だけではなく、他の住民自治組織においても同様であると思う。市には、補助金の中で、人件費の部分をもっと上げてもらったが、より安定した賃金保障があれば、募集もしやすい。再度、検討してほしい。</p>	<p>・住民自治組織の人件費や事務職員のあり方は、行政としても課題として認識してきた。その結果、人件費部分を見直した。人件費を確保することによって、人材の確保にも結びつくと思う。今回、見直したばかりであり、地域の自治活動の核を担う事務局の方がどのような役割を果たされるか、どのような仕事をされているのかを確認させていただきたい。その上で、今後の人件費や事務局のあり方について、引き続き、協議させていただきたい。</p> <p>・住民自治組織の事務局には、多くの事務量があると認識している。事務局職員のなり手の不足は、どの地域にも共通する課題であり、有効な解決案がない状況である。引き続き、一緒に取り組んでいきたい。</p> <p>・和田地区においても、まちづくりビジョンを策定していただいている。各地域の活性化を検討するため、現在、専門家に、それぞれの地域について分析してもらっている。今後の地域づくりの参考になることも多く、この分析を住民自治組織と共有しながら、様々な取組を行っていくことが重要であると思う。和太カフェや和田マーケットなど、地域の特徴を生かした取組を進められており、他地域の活動モデルになる。地域にある資源を活用することは、今後、住民自治組織の共通テーマであると考えており、一緒に取り組んでいきたい。</p>	
<p>寺町廃寺跡は、和田地区の大切な宝であり、その活用方法が課題である。昨年、寺町廃寺跡の保存活用計画を策定するため、策定委員会が立ち上がった。現在の進捗状況や今後の方針について教えてほしい。</p>	<p>寺町廃寺跡という、地域の財産を大切にいただいている。日常的な整備や、和田小学校の現地学習では指導や案内をいただいている。寺町廃寺跡の保存活用計画は、昨年度から策定に着手し、策定委員会の皆さんにご協力をいただき、順調に進んでいる。本市にとっても大切な財産であることから、策定委員の皆さんには、活用方法等も含めて、議論をいただいている。この策定事業には、国庫補助も入っているため、今年度中に策定するように努めている。保存活用計画を策定後、具体的な基本設計や実施設計をつくることから、まだまだ時間がかかる。今後も、皆さんの意見もいただきながら進めていきたい。</p>	
<p>市では、今、それぞれの地域を詳細に分析してもらっているということであるが、分析に使用されたデータを提供してほしい。和田自治連合会では、今年度、まちづくりビジョンの進捗状況を確認する予定であることから、データを参考にしたいと考えている。</p>	<p>和田地区の地域分析の結果については、速やかに提供させていただく。客観的に分析されたものであり、有効な資料になると思う。</p>	<p>分析データは6月に提供済。その他必要なデータについては和田自治連合会に連絡済。</p>
<p>広報みよしにチラシの差し込みをしているが、毎月、事務量が大きく、大変である。これまでも共有されてきたと思うが、できるだけ、市の関連情報は広報みよしに掲載してほしい。</p>	<p>広報みよしへのチラシの差し込みにご協力いただき感謝している。年度のはじめに、年間の差し込み内容を照会している。また、庁内では、できる限り、広報みよしに記事を掲載し、配布物を減らすように通知している。今後も、庁内での周知に努める。</p>	
<p>行政は情報発信が上手にできていないと言われることもあるが、しっかりと情報を出されている。ただし、必要な情報が、その情報が必要とする人に届かない。そして、自分に興味や関心がない情報についてはスルーをしてしまう。今からは、情報量を増やすよりも、必要とする人に情報を届ける方法を考えるべきである。例えば、女子野球ワールドカップの予選については、民放テレビなどで繰り返し流れていたことから、野球にあまり関心がない方も知っておられた。また、三次藩札についても、売り出されるときに、皆さんは購入しに行く。自分にとって必要な情報であると判断されたら、その情報はあつという間に行き渡る。</p>	<p>広報みよしやLINE、ケーブルテレビなど、いろいろな媒体を使って情報提供をしているが、今後、その情報提供の質についても追求していく。LINEの情報提供方法として、自分の欲しい情報を受信できるように設定する「セグメント方式」などのサービスがある。また、本市の支援事業を、ひとづくり・くらしづくり・仕事づくり・環境づくり・しくみづくりという5分野に分けた冊子を作成している。市民の皆さんに周知しきれないところもあるが、この支援事業一覧を有効に活用していただきたい。</p>	

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月10日(火)

会場:和田コミュニティセンター

参加者数:16人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>少子高齢化によって、農村地域の維持管理が困難になっている。和田地区でも圃場整備をしたが、イノシシなどに荒らされており、個人で修繕することは大変である。以前のように、団体や県営などによる圃場整備事業ができないか。市は、どのような施策を考えているのか。</p>	<p>和田地区は、いち早く、圃場整備に取り組まれた地域であると認識している。現状においては、それぞれの集落で、中山間の直接支払交付金や多面的機能交付金などの国の制度も活用されながら、維持修繕等をされていると思う。また、小規模な修繕では、土地改良区の補助事業も活用されている。一方で、大規模な圃場整備については、国の補助事業であり、圃場整備するエリアの8割は担い手に集積をすること、高収益作物を作っていくという要件がある。今、大事なことは、それぞれの地域において、これから誰が何を作って、どう維持をしていくのかなどを、まずは地域の皆さんで話をしていくことである。将来的に誰が農地を担っていくのかという、新たな地域計画の作成について市内全域で取り組んでいく。生産性をさらに上げていくために圃場整備を必要とする地域については、地域での考えがまとまれば、着手していく可能性も出てくる。まずは、地域の皆さんで、どのような農業を維持していくのか、新たに大規模化して生産効率を上げていくのかなどのお話し合いをしていただきたい。市農政課や農業委員会などの関係機関も、皆さんと一緒に考えていきたい。</p>	
<p>自宅付近では、国兼川と馬洗川が合流しており、梅雨や9月の台風の時になると、内水問題が生じる。他県では、河川の浚渫が度々行われており、洪水対策として有効と考えている。昔は、フードセンターの辺りも川だったが、現在は草木が生い茂り、土砂が溜まっている。毎年、山が崩れて、雨が降るたびに多くの土砂が流れるため、川底が浅くなっている。このような中、江の川上流域の川底を掘らなければ、島根県の下流域においても多くの土砂が溜まってしまわないのか。根本的な対策のため、河川浚渫を要望してほしい。</p>	<p>現在、国、県、市が連携しながら、河川の浚渫をしている。国においては、河川浚渫が治水対策として非常に有効であると検証されている。中国地方の治水対策に関する会議の中でも、その有効性が発表された。現在、防災・減災国土強靱化のための5か年加速化対策に基づき、治水対策の一環として、国の浚渫事業も予算化され、三次市内にある河川の堆積土砂についても、計画的に取り除いてもらっている。一度に撤去できればいいが、事業者数も限られている。そのため、今後も、国と連携して、河川の堆積土砂の撤去や樹木の伐採を計画的に実施していく。県管理の国兼川については、未整備部分もあることから、その部分を把握し、護岸整備や堆積土砂の撤去について県に要望するとともに、県と連携した取組を行っていく。</p>	
<p>イノシシやヌートリアなどへの鳥獣対策として、自分たちの畑の周りに、保護柵を立てるなど、農家が各自で対応している。しかし、個人での対応には限度があり、根本的な対策はないか。</p>	<p>・現状では、決定的な鳥獣被害対策は見出されていない。本市では、駆除班との連携をはじめ、ICTを活用した対策や防護柵などにかかる補助メニューを準備しているものの、目に見えて効果が出ているという対策はない。引き続き、専門家から意見を聞きながら、有効な対策について調査・研究していきたい。また、地域の皆さんと情報共有しながら、鳥獣被害対策に取り組んでいきたい。 ・有害鳥獣対策としては、環境整備、防護柵の設置、そして捕獲の三つを基本にして取組を進めている。自分たちの住んでいる地域で、どこから有害鳥獣が現れているのか、有害鳥獣の餌場になっているところはないだろうかなどと、地域ぐるみで、点検活動や環境改善を行っていく必要がある。このことに重点を置いて取組を進めるため、補助事業等で地域に支援をしている。この補助制度を活用して、自分たちでできることはしてもらい、駆除班による捕獲活動なども並行して取り組んでいる。通信機能付きのカメラを設置して、捕獲状況がわかるような取組も、各地域で実施してもらっている。また、支援策の中には、狩猟免許を取る費用も含まれており、地域の方々が狩猟免許を取って捕獲をしている。市では、このような地域ぐるみの取組を推進しており、地域からの要望があれば説明させていただく。</p>	
<p>保育所や小学校の環境がいいことから、和田地区に引っ越してきた。今、子どもを、小学校に安心して預けることができている。他の学校では行われていない取組をされているなど、他の学校の保護者と話をする際にも自慢できる学校である。今年度始まった「totoru(テトル)」というアプリでは、学校から、保護者の携帯に学級通信や学校だよりなどを送っていただき、写真をカラーで見ることができる。このアプリを導入してもらい、よかったと感じるとともに、他の自治体に居住する人に対して自慢することができる。</p>	<p>学校関係者にとって元気の出る話をさせていただき、感謝申し上げます。</p>	

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月10日(火)

会場:和田コミュニティセンター

参加者数:16人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>学校の敷地内の草刈りについて要望する。敷地が広く、グラウンドのネットの内側は保護者と教師で行うことができる。しかし、外周部分の法面は、地域の住宅や道路に隣接していることから、綺麗にする必要があると思うが、非常に量が多い。先生や保護者の負担も大きい。学校に環境整備の予算をつけるのではなく、他自治体でも実施している草刈り業務への入札をしてほしい。</p>	<p>草刈りについて、昨年度も、グラウンドだけではなく、外周や法面がかなり広いため、何とかできないだろうかという意見を出していただいたことは認識している。確かに、範囲が広いことから、草刈りについて工夫していく必要がある。外注することができればいいが、他の学校にも共通することから、実際には地域の皆さんや保護者のご協力をいただいている。学校の予算の範囲内で、例えばシルバー人材センターに依頼するなど、工夫をしている学校もある。どの程度の費用が必要なのか、あるいはどのような工夫ができるのか、来年度に向けて、しっかりと内容を調べていく。</p>	
<p>和田小学校では、携帯の電波が悪い。フリーWi-Fiスポットを、全フロアでなくてもいいので、1階部分には設置してほしい。</p>	<p>・Wi-Fi環境やインターネット環境については、教育委員会や学校において確認する。教育委員会としては、ICTの環境を進めていることから、その実態について、丁寧に把握していく。 ・現在、ICT教育がより進んでおり、各小中学校のWi-Fi環境を改善してきた。しかし、このコミュニティセンターのように電波が悪い箇所もあることも認識している。</p>	
<p>学校のトイレを洋式化してほしい。全てを変えることは費用面から厳しいと思うが、1階部分のトイレだけでも、乾いた状態の床で、できる限り洋式化を考えてほしい。</p>	<p>学校トイレの洋式化は、計画的に進めていく。今、老朽化対策事業や学校の整備事業を計画的に進めているが、優先順位を具体的につけていかざるを得ない状況にある。子どもたちが安心して生活できる環境をつくるため、引き続き、教育委員会としても課題意識を持って進めていきたい。また、意見等を聞かせていただきながら、よりよい方向を模索していきたい。</p>	